



ゆめ半島
千葉国体
2010

国体の記憶 2

頂を見続けるスプリンター(陸上)



岩本 一雄さん(江弁須)

旧下総町青山生まれ
東京学館高等学校陸上競技部顧問
昭和44年～49年、国体陸上成年男子100mに出場、
47年から3連覇を達成。48年アジア選手権で日本
記録(当時)を樹立。平成11年から千葉陸上競技協
会強化委員長、国体県陸上競技ヘッドコーチ



連覇を狙うスプリンターの登場に、
県陸上競技場(千葉市天台)は沸き立っ
た。昭和48年千葉「若潮国体」。初めて
の地元開催に、県民の興奮と期待はふ
くらみ、所属先の旧下総町役場では、
窓口係などの職員を残し、大勢が会場
に駆けつけた。

「プレッシャーはありましたよ。こ
れで負けたらどうしようなんて、つま
らないこと考えたりね」

自身にとって5度目の国体。大舞台
には慣れているつもりだったが、さす
がに雰囲気は飲まれ、重圧に体が硬く
なった。予選・準決勝とタイムが振る
わず、迎えた決勝。ミュンヘン五輪
200m・400m代表・日本記録保
持者の友永選手との一騎打ちとなつた
が、「ひたすら自分をコントロールする
ことに努めた」結果、平常心を取り戻
し力を出し切ることができた。10秒5
の好記録。文句なしの連覇だった。

優勝を決めた後の観客席の熱狂ぶり
に「数々の大会に出場しましたが、あ
のときが一番すごかった」と振り返る。
この実績をひっそり、1カ月後のア
ジア選手権では10秒1の日本記録(当



国体連覇を果たし、
喜びのゴールテープ
を切る岩本選手(昭
和48年)

時)をマーク。翌年の茨城国体では3
連覇を達成した。

あれから30年余。現在は、国体陸
上競技の県ヘッドコーチ(監督)を務め
る。平成14年の高知国体では、29年ぶ
りにチームを優勝に導き、昨年の秋田、
今年の大分と連勝中。監督の役割を「最
高の状態で選手を土俵に上げてやるこ
とだけ。最後は選手自身の力」と話す
が、選手集めや、トップクラスをいか
に本気にさせるかなど、チームの力は
その手腕によるところが大きい。

37年ぶりの地元開催。周囲の期待は
これまでになくふくらんでいる。

「千葉国体に、今度はコーチとして
関わることができる。一つの節目とし
て必ず優勝を獲る」。笑顔を見せつ
つ、強いまなざしでそう言い切った。

編集後記

表紙のプラグッティは、今年8月イギリスから空輸で持ち込まれた
車で、初代オーナーはイギリスのパートラム・オースチン大佐。第
一次世界大戦で両足を失った同氏が、ブルックリンサーキット場で
16戦11勝し、身体障がい者の運転を禁止する法律を変えるきつ
かけを作った車だそうです。人に歴史あり、車に歴史ありですね。



成田市役所本庁舎(行
政棟、議会棟、消防本
部、成田消防署)は
ISO14001の認証登録
を受けています。

平成20年11月15日号 No.1135

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>